

消費者動向調査（令和7年1月調査）

食の志向等に関する調査結果

- 1 食に関する志向
- 2 国産品かどうかを気にかけるか
- 3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度
- 4 日本の将来の食料輸入についての考え
- 5 環境に配慮した農産物・加工食品の購入

調査要領

調査時期 令和7年1月

調査方法 インターネット調査

全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人）

※インターネット調査であるため、回答者はインターネット利用者に限られる。

※図表において、四捨五入の関係上、合計が一致しない場合がある。

<調査に関するお問い合わせ>

日本政策金融公庫 農林水産事業

情報企画部 TEL 03-3270-5585

詳しい調査結果は、当公庫ホームページ（<https://www.jfc.go.jp/>）に掲載しています。
トップページから「刊行物・各種調査結果」→「農林水産事業」→「消費者動向等調査」
の順でご覧いただくか、右の2次元コードでもアクセス可能です。
（通信料はお客様のご負担となります）



令和7年3月



日本政策金融公庫

農林水産事業



1 食に関する志向

図1 食に関する志向の推移

- ・現在の食の3大志向は、前回までの調査と同じく「経済性志向」「健康志向」「簡便化志向」となった。
- ・3大志向は「経済性志向」（45.6%、前回比+1.4ポイント）、「健康志向」（44.0%、同+0.8ポイント）、「簡便化志向」（40.3%、同+4.8ポイント）と、いずれも前回調査から上昇した。
- ・3大志向以外の志向は、いずれも前回調査と同率または低下となった。

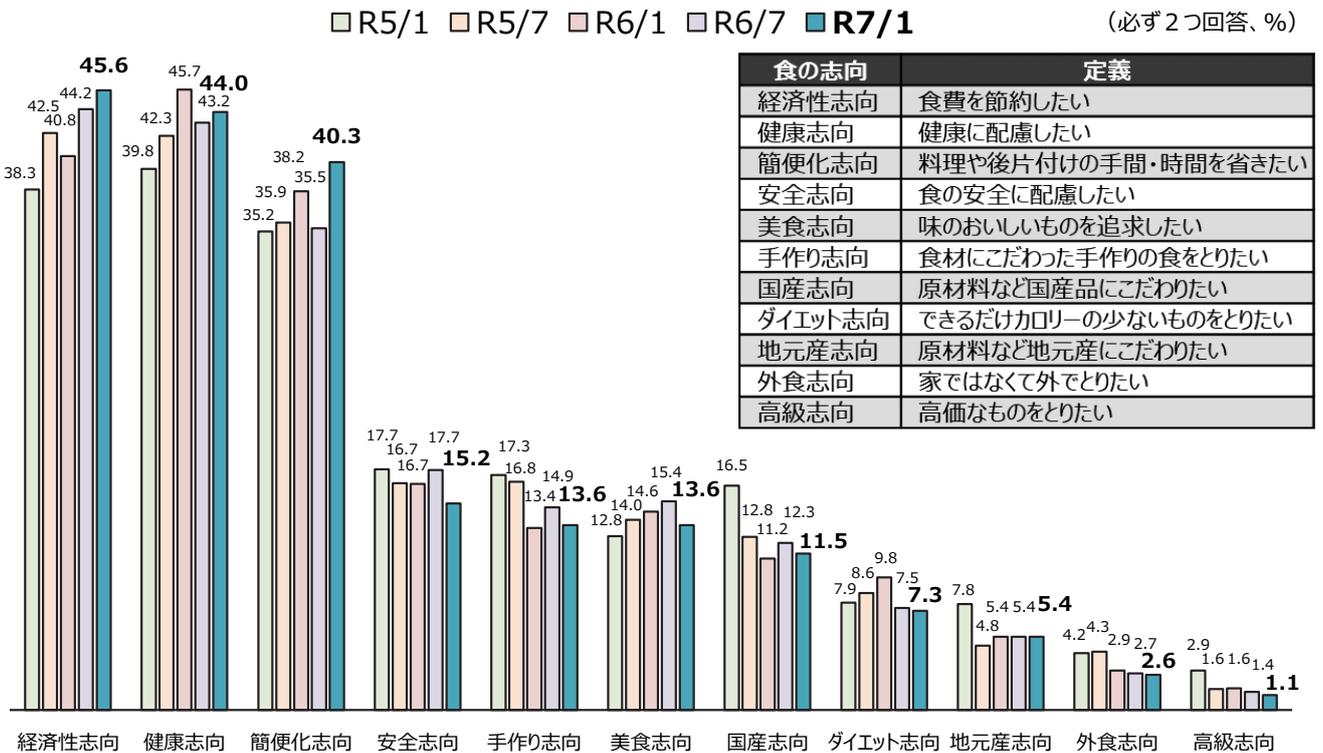


図2 食に関する志向（3大志向、平成20年12月調査からの推移）

- ・「経済性志向」（45.6%）は、令和5年7月調査以降、40%超えの高水準を維持している。今回調査では、前回調査に引き続き調査開始（平成20年）以来最高を更新した。
- ・「簡便化志向」（40.3%）は、これまで最高だった令和6年1月調査を上回り、調査開始来初の40%超えとなった。

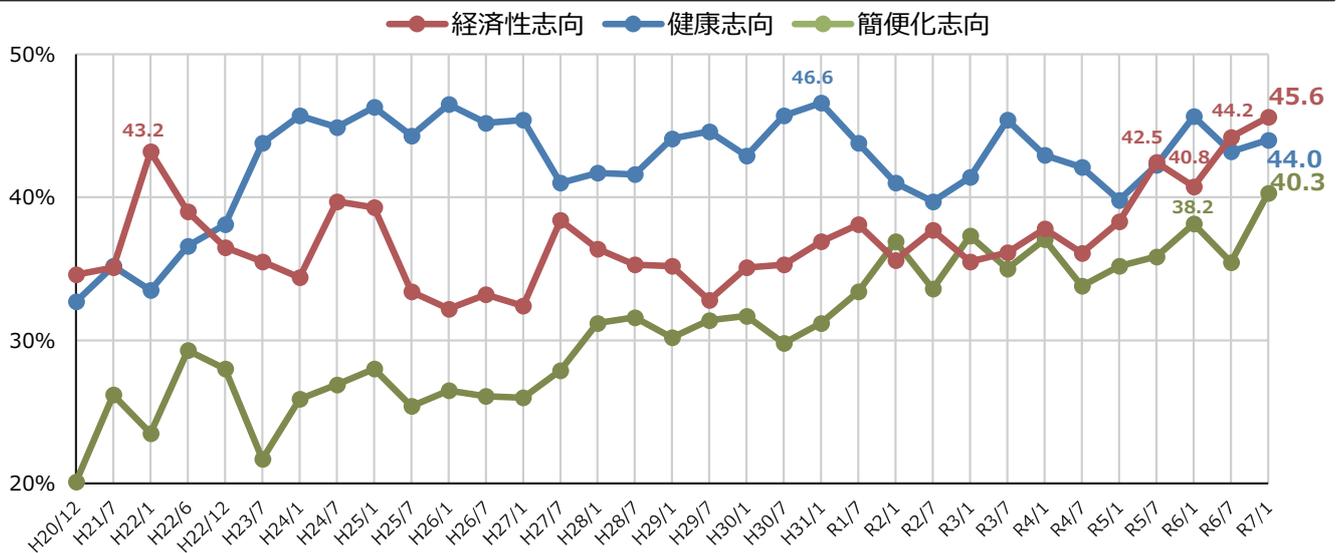
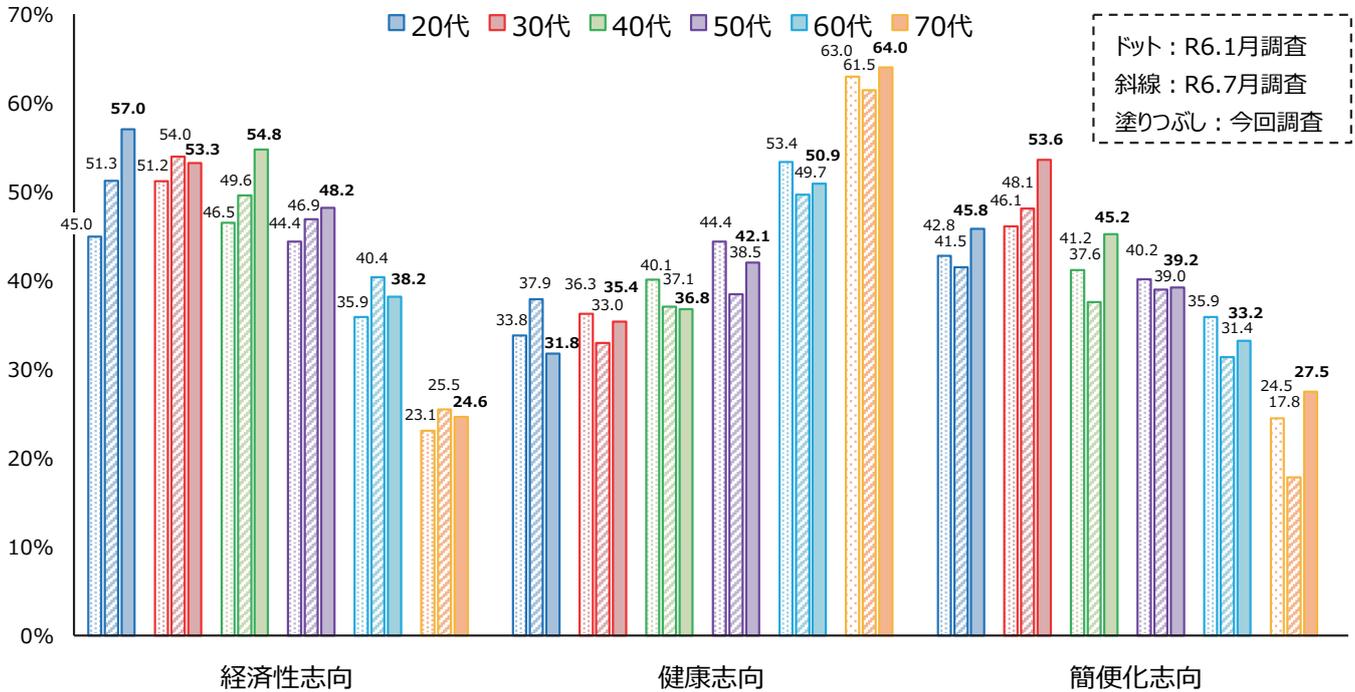


図3 年代別 食に関する志向（3大志向）

- ・「経済性志向」は20代（前回比+5.7ポイント）と40代（同+5.2ポイント）で大きく上昇した。
- ・「健康志向」は30代と50代~70代で上昇したが、20代（同▲6.1ポイント）では大きく低下した。
- ・「簡便化志向」はすべての年代で上昇し、70代（同+9.7ポイント）、40代（同+7.6ポイント）、30代（同+5.5ポイント）で大きく上昇した。



2 国産品かどうかを気にかけるか

図4 食料品を購入するときに国産品かどうかを気にかけるか（継年データ、年代別）

- ・食料品を購入するときに国産品かどうかを「気にかける」割合（66.0%、前回比▲0.3ポイント）は前回調査から横ばいで推移。長期的には減少傾向。
- ・年代別では、「気にかける」は年代が高くなるほど割合が高い傾向となった。

【継年データ】

【年代別】

(%)

■気にかける ■気にかけない □食料品は購入しない

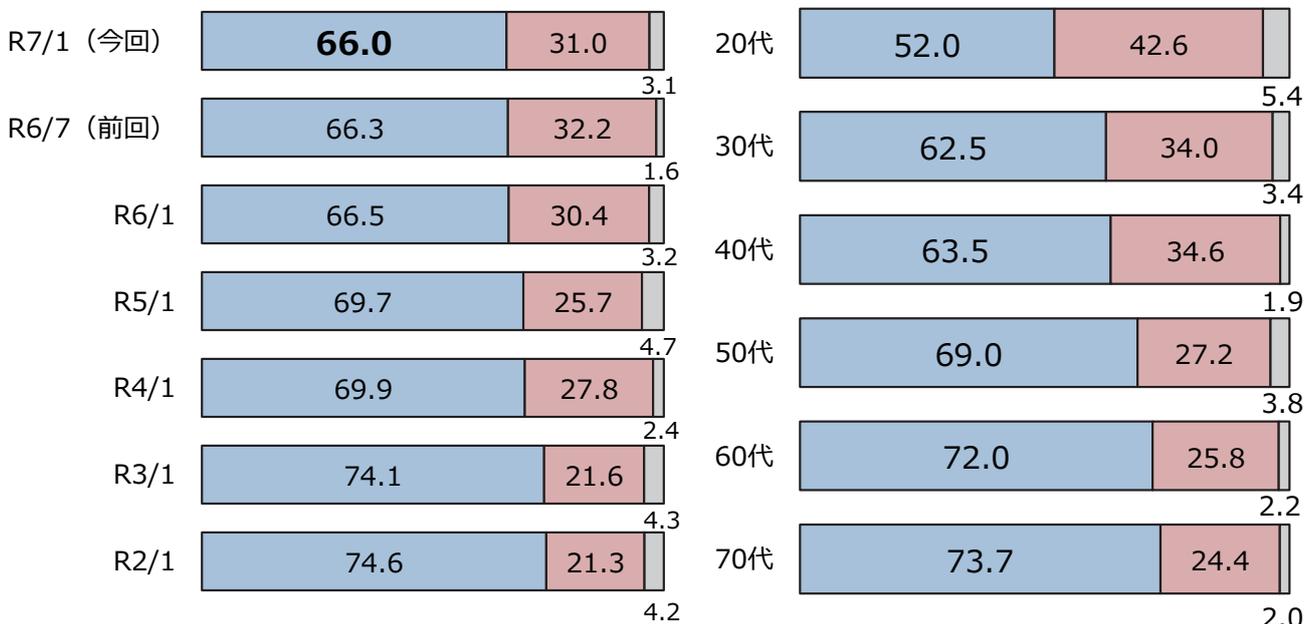
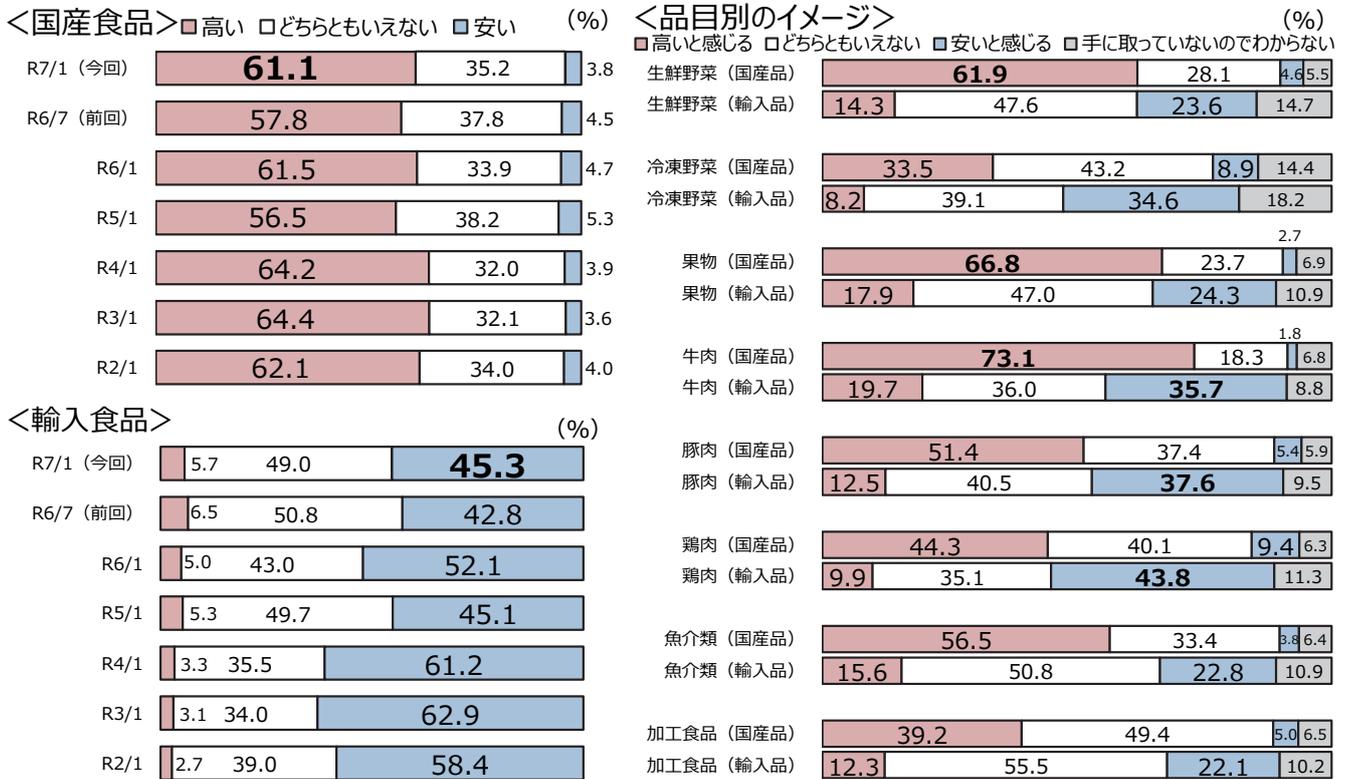


図5 国産食品、輸入食品に対する価格イメージ

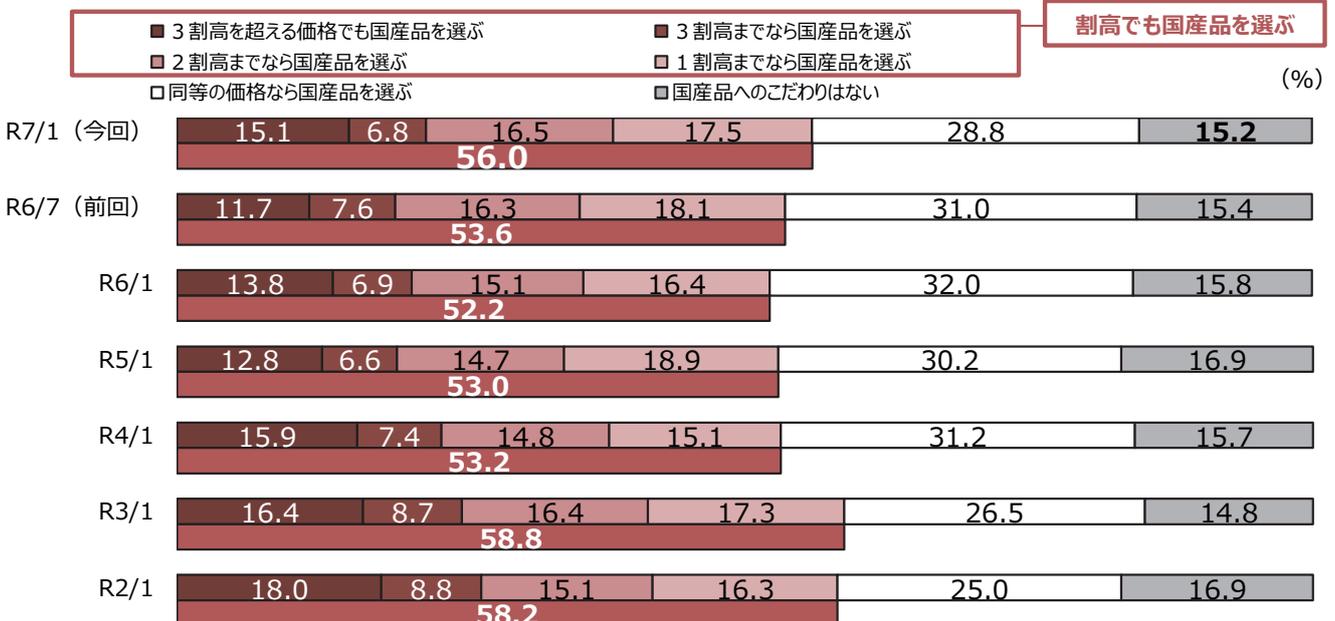
- ・国産食品に対するイメージは、価格面は「高い」(61.1%、前回比+3.3ポイント)の割合が上昇した。
- ・輸入食品に対するイメージは、価格面は「安い」(45.3%、同+2.5ポイント)の割合が上昇した。
- ・品目別では、国産品が「高いと感じる」と回答した割合が最も高かった品目は「牛肉」(73.1%)で、次いで「果物」(66.8%)、「生鮮野菜」(61.9%)となった。
- ・輸入品が「安いと感じる」と回答した割合が最も高かった品目は「鶏肉」(43.8%)で、次いで「豚肉」(37.6%)、「牛肉」(35.7%)となった。



3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度

図6 国産食品の輸入食品に対する価格許容度の推移

- ・“割高でも国産品を選ぶ”とする割合 (56.0%、前回比+2.4ポイント) は上昇した。
- ・「国産品へのこだわりはない」(15.2%、同▲0.2ポイント) は横ばいとなった。



4 日本の将来の食料輸入についての考え

図7 日本の将来の食料輸入についてどのように考えているか

・日本の将来の食料輸入について、“不安がある”とする割合は81.2%となった。
 ・年代別では、“不安がある”とした割合は年代が高くなるほど割合が高い傾向となった。

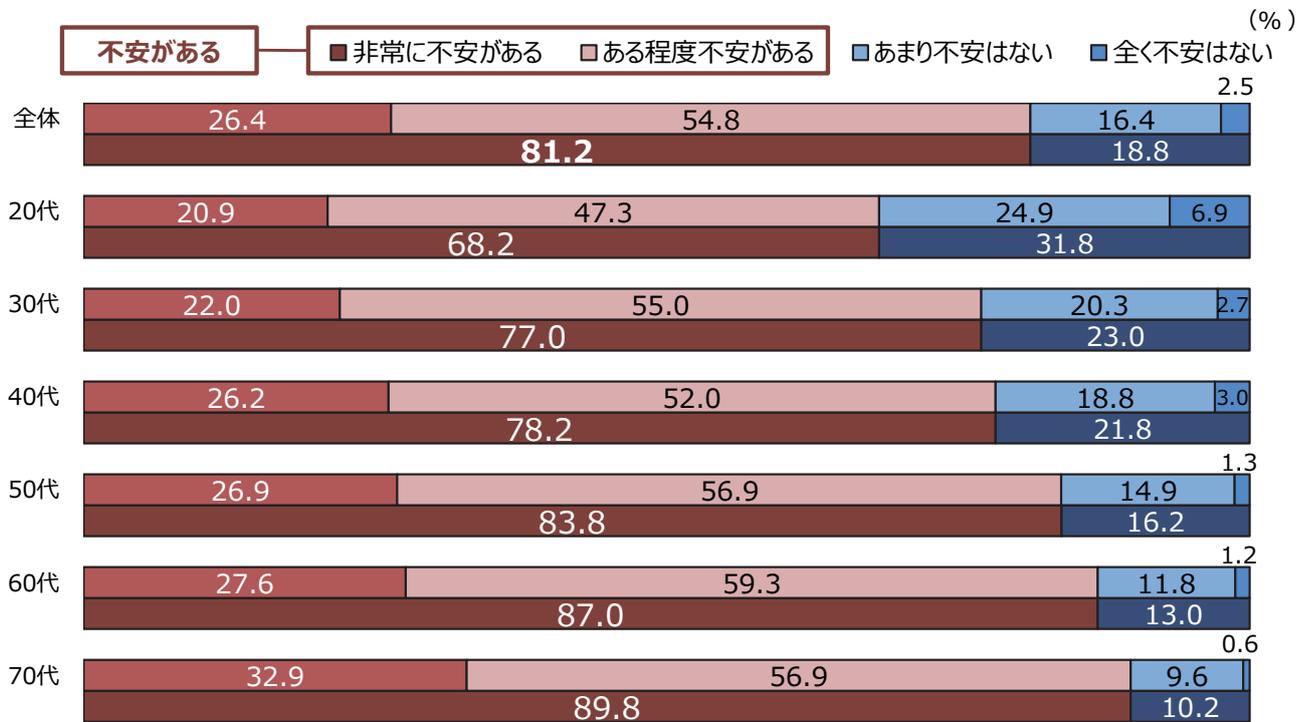
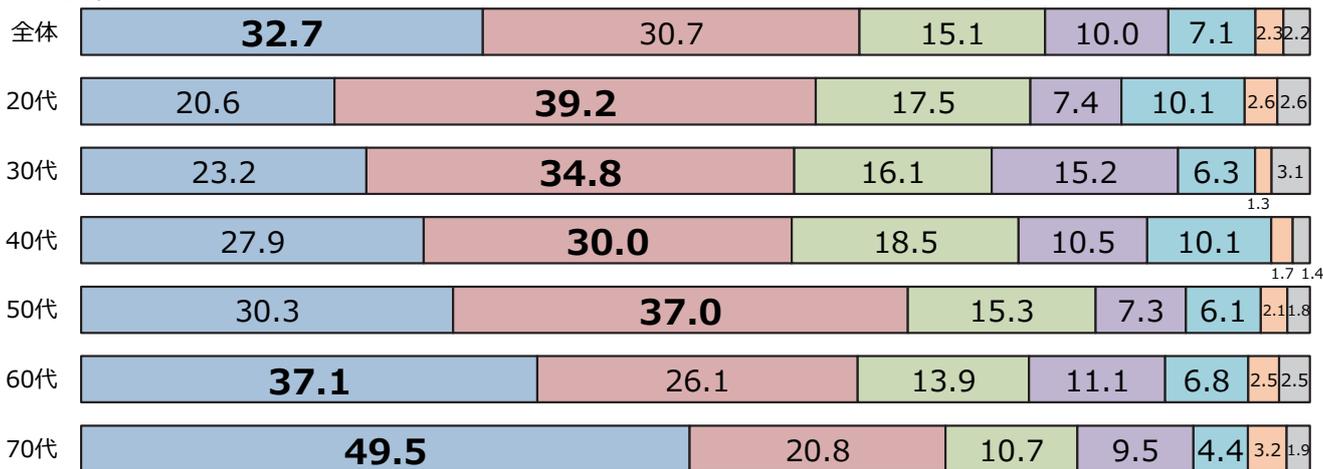


図8 日本の将来の食料輸入について不安があると考える理由

・日本の将来の食料輸入について“不安がある”とする理由は「気候変動や自然災害が輸出国における食料生産に影響を与え、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから」(32.7%)が最も高くなった。
 ・年代別では、60代、70代は「気候変動や自然災害が輸出国における食料生産に影響を与え、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから」、20代～50代は「紛争や政治的な緊張、輸出国の政策変更などにより、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから」が最も高くなった。

- 気候変動や自然災害が輸出国における食料生産に影響を与え、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから
 - 紛争や政治的な緊張、輸出国の政策変更などにより、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから
 - 燃料価格の上昇や物流の問題により、輸送コストが増加し、価格が高騰する可能性があるから
 - 世界人口の増加により、世界的な食料需要が増加し、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから
 - 新興国の経済成長により、日本の購買力が相対的に低下することで、必要な輸入量を確保できなくなる懸念があるから
 - とうもろこしなどを原料とするバイオ燃料需要が増加し、穀物の供給量が減ることで、価格が高騰する可能性があるから
 - その他
- (単一回答/「非常に不安がある」「ある程度不安がある」と回答した方、%)



5 環境に配慮した農産物・加工食品の購入

図9 環境に配慮した方法で栽培された農産物かどうかを気にかけるか

- ・農産物購入時、環境に配慮した方法で栽培された農産物かどうかを“気にかけている”とする割合は42.1%となった。
- ・年代別では、“気にかけている”とした割合は70代が最も高く、30代が最も低くなった。一方で「いつも気にかけている」とした割合では30代が最も高くなった。

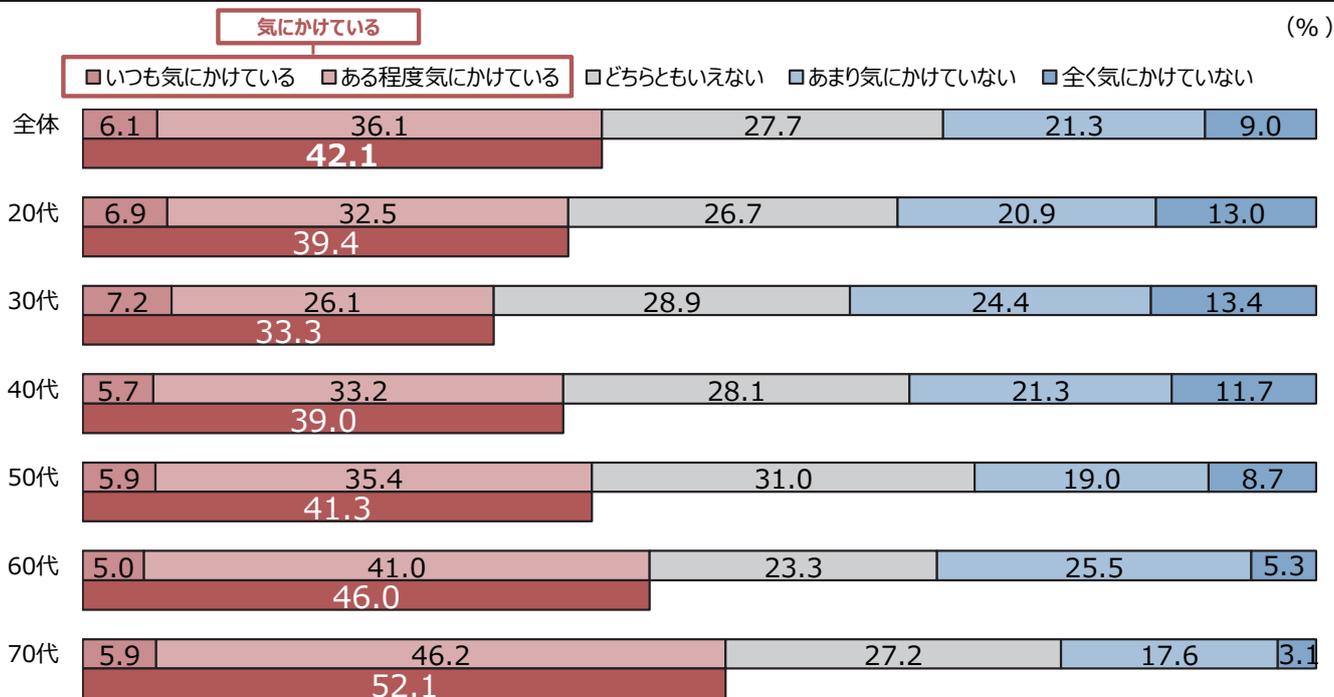


図10 環境に配慮した方法で栽培された農産物として、よく購入するもの

- ・環境に配慮した方法で栽培された農産物としてよく購入するものは「地産地消の農産物」（51.0%）が最も高くなった。
- ・「地産地消の農産物」は年代が高くなるほどよく購入すると回答した割合が高くなった。
- ・「有機農産物」はおおむね年代が低くなるほどよく購入すると回答した割合が高くなった。

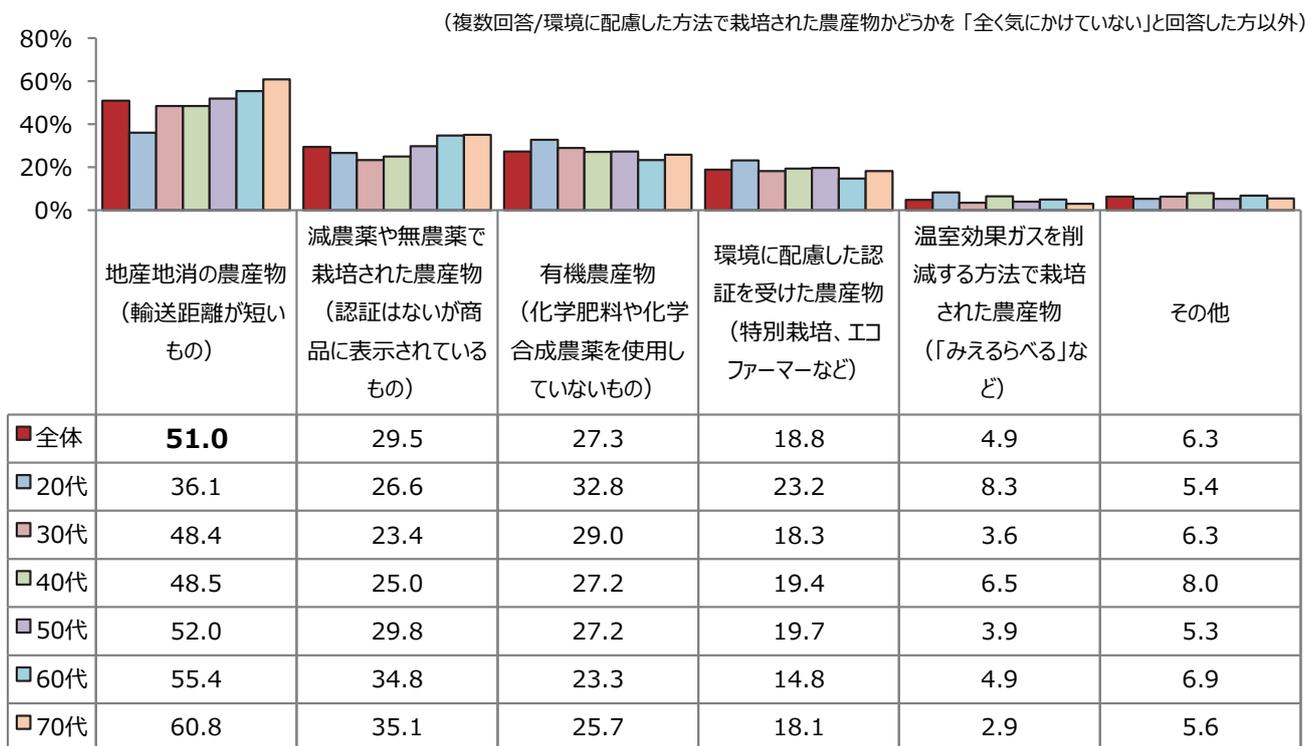


図11 環境に配慮した方法で栽培された農産物を選ぶ理由

・環境に配慮した方法で栽培された農産物かどうかを“気にかけている”と回答した方が、環境に配慮した方法で栽培された農産物を選ぶ理由は「食べる人の健康に配慮しているから」（64.3%）が最も高くなった。

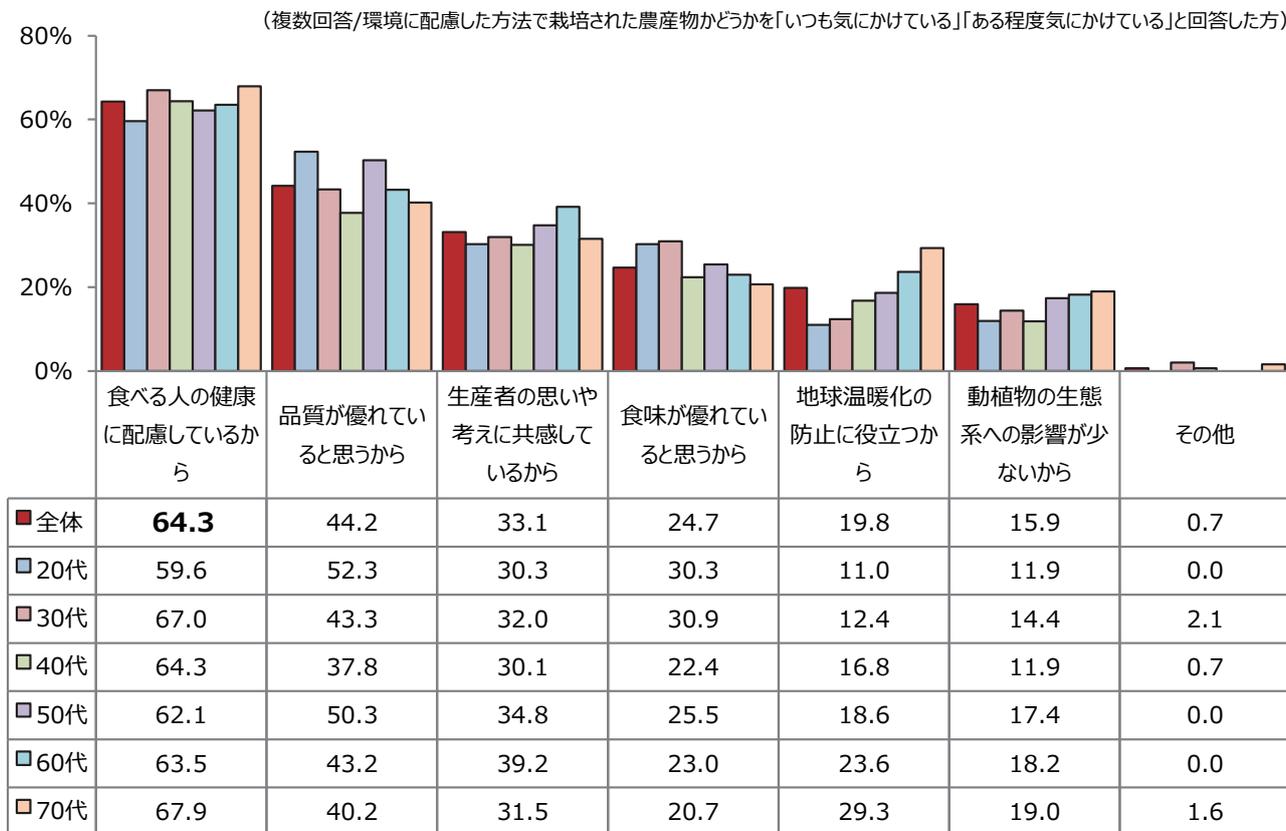


図12 環境に配慮した方法で栽培された農産物の購入における価格許容度

・環境に配慮した方法で栽培された農産物について、そうでない農産物と比べて価格が高くても購入したいと思うか尋ねたところ、“割高でも環境に配慮した農産物を選ぶ”と回答した割合は59.4%となった。
 ・年代別では、20代～50代は5割台、60代では約6割、70代では約7割となった。

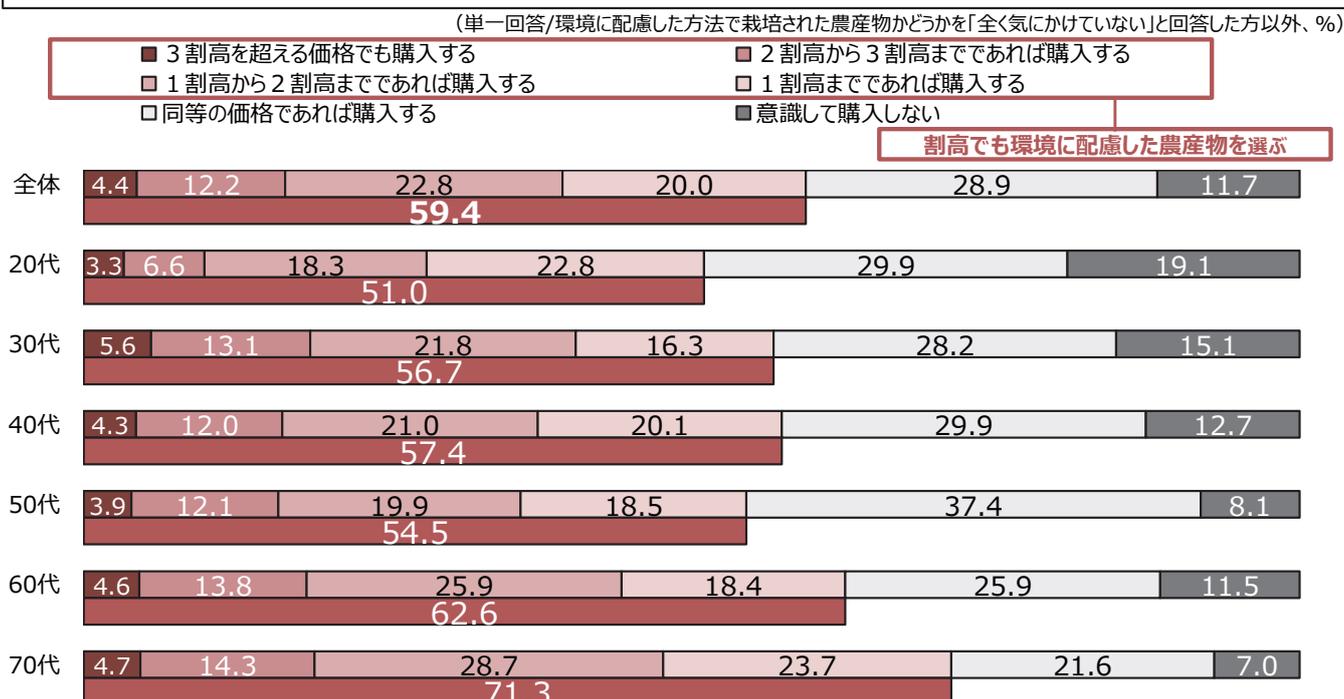


図13 環境に配慮した方法で生産された加工食品かどうかを気にかけるか

- ・加工食品購入時、環境に配慮した方法で生産された加工食品かどうかを“気にかけている”とする割合は30.8%となった。
- ・年代別では、“気にかけている”とした割合は70代で最も高く、30代で最も低くなった。一方、「いつも気にかけている」とした割合は30代が最も高くなった。

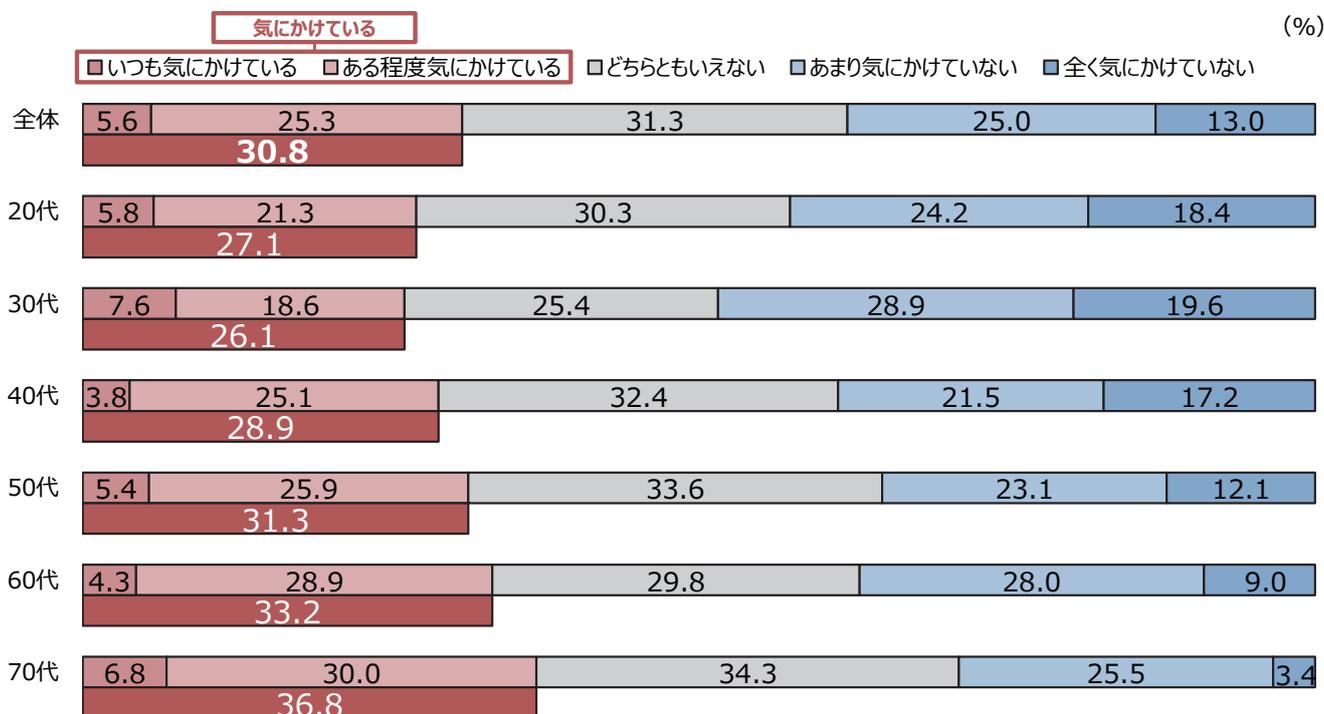


図14 環境に配慮した方法で生産された加工食品として、よく購入するもの

- ・環境に配慮した方法で生産された加工食品としてよく購入するものは「食品ロス削減・食品リサイクルに配慮した食品」(41.5%)が最も高くなった。

